

裏面に掲載 ○外部コンクール等に応募した生徒作文

先生方の研修

7月1日、琉球大学にて、先生方の研修を行いました。...



校内スポーツ大会開催
7月7日、コロナ禍への配慮から、午後2時から、校内での大会を開催しました。

楽しく仲良くみんな活躍



競技大会
生徒たちは、試合に臨む前、練習を怠らないうえ、試合中も、最後まで諦めず、最後まで戦った。

生徒の感想
先生方、大変お疲れ様です。研修を通して、先生方の熱意と、生徒への愛情を感じました。

英語授業をサポート



英語授業をサポート
本校では、英語授業をサポートするために、先生方の研修を行いました。

○出前講座を受けての生徒感想



生徒の感想
先生方、大変お疲れ様です。研修を通して、先生方の熱意と、生徒への愛情を感じました。



生徒の感想
先生方、大変お疲れ様です。研修を通して、先生方の熱意と、生徒への愛情を感じました。

さあ力試し!

8,9月行事予定

Table with 2 columns: Date and Event. Includes dates like 8月25日 (始業式) and 9月3日 (漢字検定).



生徒の感想
先生方、大変お疲れ様です。研修を通して、先生方の熱意と、生徒への愛情を感じました。

ミニセミナーCAP



生徒の感想
先生方、大変お疲れ様です。研修を通して、先生方の熱意と、生徒への愛情を感じました。

就職ガイダンス

コロナ対策!

新型コロナウイルス感染防止対策の継続。家族を含む発熱等風邪症状発症時の生徒の自宅待機の協力をお願いします。

カラー版は後日本校ホームページにてご覧いただけます。

第37回糸満市少年の主張大会 参加生徒作文

父が僕に遺した宿題

三年 兼元紫優哉

「ねえ、よく聞いてね。これが人の“死”だよ。眠っているみたいだけどね、ずっと起きてこないんだよ。」
母は僕たちに声を震わせながら教えてくれました。三年生に進級した四月。病室のベッドで横たわる父の顔は穏やかで、駆けつけた時はまだ体は温かく、いつものように欠伸をしながら起きてきそうでした。しかし、現実を目の当たりにした僕はしばらく信じられませんでした。

僕が考える死は、こんなにも身近なものではありませんでした。僕が普段からしていたあいさつ、おでこに指二本をくつつけた「よっ」に対し、横になりながらも同じポーズで応えてくれた父。その日の父は、普段の姿とはかけ離れていても弱々しく力の限り応えてくれました。眼をそむけなくなる無慈悲な現実に、僕はそれをただ見守ることしかできませんでした。「また今度ね」と声をかけると、微笑む父。しかし、また今度は永遠に来ません。次も会えると思つて後回しにしていた言葉、ありがともも伝えきれずに、父はこの世を去りました。

生前父の仕事は力仕事で、特に夏場は家に帰ってくるなり、「今日も疲れた。」と眠ってしまう日々のくり返しでした。もともとお酒好きで、仕事でのストレスからなのか、お酒に手が伸びる回数も徐々に多くなっていきました。母は看護師なので、父の体の異変にいち早く気付いたのでしよう。それからというもの、僕は何度となく、父と母のお酒の量についての間答を目にしました。いつだって最後は、「自分の体のことは自分が一番よくわかっている。」と父は言い、結論づく会話に終わってしまうのです。一連の出来事も厳しい言い方をすると、父は自分で自分の身を滅ぼした言わば自業自得であるといえます。僕は考えました。父の人生は幸せだったのだろうか。いつか観たテレビで、「神はその人が乗り越えるだけの困難をお与えになる」と聞いたことがあります。神を信じる信じないは別として、僕はこの話に納得していません。父が僕に遺してくれた宿題。それは父の死を乗り越えなさいという宿題です。こんなにも早く言い渡した父に僕は一言「分かった。頑張る。父

さん、僕、乗り越えるよ。」父の死を経験し、僕は改めて命というものの儚さや尊さについて考えることができました。命というものは、限りなく広大で、何よりもずっしりと重いものであることを。

僕の将来の夢は、英語に携わる仕事に就くことです。英語が使えるようになって、世界中の多くの人とつながり一人ひとりの人生に触れてみたいと思つています。僕は読書も好きで本を通して得たさまざまな人の生き方に感銘を受けることも多いです。しかし、実際にその人がどう生きてきたのかを対話を通して語り合つてみたいのです。そのためにも、僕は父の死を受け止め、将来の夢実現に向けて頑張りたいと思えます。そしていつしか父の年齢を超え、「夢かなえたよ。」と仏前の父に胸を張つて報告したいです。その時に生前父の何度も話した「二人で雑談しながら飲み交わす」ことをしたいです。「紫優哉、気長にまつているよ。」と父の言葉が聞こえてきそうです。「父さん、僕、頑張るよ。父さんが僕に遺してくれた宿題、叶えるからね。」

第44回「全日本中学生水の作文コンクール」

沖縄県審査 入選

水との共生社会

三年 沖田椿

「水」というワードを聞いた時みんな何を思い浮かべるだろうか。私は身の周りの水を挙げる。しかし、最近新聞を読んでいた父が「パーチャルウォーター」について知っていたか？と私達兄弟に聞きました。私には、高校生の兄と大学生の姉がいますが二人は「聞いたことはあるけど知らない」と答えました。パーチャルウォーター。私は初めて耳にしました。

気になって調べてみるとパーチャルウォーターとは、輸入した物を仮に自国で生産するとしたら、どれくらいの水が必要になるかその水の量を予測した物と書いています。私たちの国、日本は食料自給率が低くほぼ輸入に頼つて生活しています。海外から輸入した小麦や野菜などの農産物や肉などの畜産物には育てるために相当量の水が使われていて、その水も一緒に輸入していることになり、直接的にも水も輸入していることになり、世界の水を使っていることになり、

例えば、私が毎朝食べている食パンで考えると、一斤の食パンを作るのに必要な水は約五百リットルだそうなんです。そう考えると、鳥肌が立ちます。そうした時にある疑問が浮かびました。私一人で少しの量を食べるのにこんなにかくさんの水が使われていて、それが世界で行われているとしたら水は無くなるのかという疑問です。すぐに調べてみるとやはり水には限界があつて、地球の表面は役八割が水と言われているが、飲み水などに使用できるのは地球上にある水のわずか〇・〇パーセントしかないそうです。もちろん、パーチャルウォーターだけで水を使っているわけでは無いのは当たり前で、家庭での水の使い方は、洗濯、炊事、トイレやお風呂すべて水は必要不可欠です。水不足はそんなに未来の問題ではありません。他の国では、雨があまり降らない環境下ですでに水不足の国があります。日本は、そんな国からパーチャルウォーターを得ているかもしれない。パーチャルウォーターの輸入国のデータを見てみるとその多くは先進国だそうなんです。輸出の水を利用しているため、その国の水問題を悪化させてしまう可能性が出てきます。日本は、降水量が多く、水道水の水質が高い好環境にあります。しかし、安全な水を飲めない環境でも、生きるために作物や畜産物を作り輸出しなければならぬ人たちがパーチャルウォーターを得ているかもしれないという事実があります。

水問題は、SDGs 持続可能な開発目標に「安全な水とトイレを世界中に」と上げられていて、私はパーチャルウォーターは世界の水問題に深く関わっていると改めて思いました。私たち日本は安全な水とトイレを確保できているため、他の国を助けなければならぬと思えます。それには、パーチャルウォーターを少なくしなければなりません。輸入品を少なくするには、食糧自給率を上げ、地産地消に力を入れるのが大事だと改めて確信しました。食料自給率の高いお米や魚を日頃の食事に定期的に食事に入れることでも少しは力になれると思えます。

このように考えていくと、私達人間にとつて、水は生きていくうえで必要なものです。水は生命の源だとよく聞きます。地球上に生物が存在するのは、水が液体として大量に存在する恩恵だともいえます。また、私たちの体の六割から七割は、水だそうなんです。そのことも含め私は、生命の源である水について考

え、水を大切にしていきたいと思えます。また同時に、今後は水との共生社会を築いていくべきだと思います。

SSIT講座を受けての感想

二度目のSSIT体験を終えて

三年 上原柚

今回のSSITは、前とは少し違つて、スムーズに話せました。最初は、異性と一緒にペアを組むということで、探すまでは時間がかかったけど、組んでみたらスムーズに話すことができ、良かったです。

次は、中が良い友達四人とペアを組みました。その時は、すぐに組むことができ、少し遊びながら出来ました。いろいろなことを考えながら、難しいお題などにも取り組むことが出来ました。

二度目ということもあり、皆なれてきていて、積極的に発表が出来ました。ほかにペアを組む時間や話し合いも素早く行えて、とても良かったなと実感しました。一度目とは違つたお題も出されたけど、皆で考えながら出来ました。

SSITはコミュニケーション能力が身につけていくと思うので、この体験を普段の生活にも生かしていきたいです。

二回目のSSIT

三年 上原紗河

先日、僕たち三年生は2回目のSSITをしました。

一回目のときと違い、最初から男女2人でペアになって話しました。やっぱり、少し緊張したり、恥かしかつたりしたけど1回目よりも楽しく話せました。僕とペアになった人の最近あつた良かったことで、「デザートを食べたべられた。」ということを知り、嬉しくなりました。そんな話を聞いたら、嬉しくなりました。グループでやったときは、いつも一緒に遊んでいるメンバーだったので話しやすかつたし、少しふざけてギャグも入れたりしたので、なれている人とそうでない人は、こんなにも差があるんだな、と自分の中で実感しました。あまり、話したことのない人でも、普段から少しづつ交流をしたら楽しく話すことが出来ると思うので、頑張りたいです。